

たわわ

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。

2014
AUTUMN
No.92



楽器を作る楽しさ、 楽器でつながる楽しさ

バイオリン職人 た なかしんじ 田中 眞次さん



♪バイオリン制作への道♪

会社員をやっていた頃、手作業で何かを作りたい、とずっと思っていました。

楽器を作りたい、と思ったのは音楽が好きだったからです。

会社をやめて本を集めて、1年ぐらいで1台のバイオリンを作りました。けれども、僕は弾けない。そこで思い立って、3つの大きなオーケストラのコンマス(※1)に「試し弾きしてもらえませんか？」と手紙を出しました。

その中で、当時日本フィルハーモニー交響楽団のコンマスだった大川内弘さんからお返事をもらえました。実際試し弾きをしてくださり、「ちゃんとできていますよ」と言っていただけなのです。

それまでは1台作って駄目だったら会社員に戻ろうかな、と思っていたのですが、「よし、もう少し作ってみよう」という気持ちになりました。

それから縁あって、イタリアのクレモナでバイオリン工房を持つマエストロ(※2)・石井高氏いしいたかさんの下で1年ほど学ぶ機会を得ました。そばで見ているのと本を読みながら作るのでは全然違う。表面のふくらみの作り方とか、そういう細かな部分も本当によく分かりました。

その2人がいなければ、僕は今もバイオリン制作を続けていないかもしれません。

♪弦楽リぼんのはじまり♪

自分でもバイオリンを作りたいとか、修理をしてほしいとか、気軽に立ち寄ってくれる人が増えてきています。

そんな中で、バイオリンは難しいから、買ったはいいいけど挫折する人が多くて日本各地で眠っているのかもね、という声を耳にしました。そういうバイオリンを譲ってもらい、修理したものを誰かに使ってほしいね、と。

誰に譲ってほしいか考えた時に、バイオリンを習う環境にない子供たちに渡したら喜んでもらえないだろうか、ということで「弦楽リぼん」が始まりました。

知人に児童養護施設に知り合いがいる人がいて、話を持ちかけたのは今年の3月。4月に子供たちの前で演奏と体験できる

時間を設け、弾いてみたいという子に対するレッスンを5月からスタートしました。

当初は施設側にも子どもたちにも戸惑いがありましたが、今ではもう信頼関係ができています。

現在は、小学1年生から高校3年生までの16人に教えていますが、いつも本当に楽しみに待っていてくれる。楽しく弾いて好きになってくれるのが一番です。

「弦楽リぼん」は新聞や地域の情報誌に活動を取り上げてもらっています。

マスメディアを通じての反響というのはものすごく、県内各地からお問い合わせが増えています。今では40台を超える弦楽器を保管していますが、修理作業が追い付きません。工房に保管できる数には限界があるので、まだ梱包を開封できていないものもあるような状況です。

今困っているのは、楽器の保管場所がないことです。譲ってくださった方の思い入れのある楽器を丁寧に扱いたい。そう思うと、現状には胸を痛めています。

僕らの活動である「弦楽リぼん」は、譲ってくれた人、修理した人、指導する人、弾く人そして演奏を聴く人の「結びつき」をイメージして名付けられています。弦楽器に触れた子どもたちが、その楽しさを知って続けてくれると嬉しい。そして、いつの日か高齢者施設などで演奏をするようなことができれば…と夢は膨らみます。

習得の難しい楽器であるからこそ、修理して渡すだけではなく、指導までして音楽の楽しさに触れてもらいたい。そしてその楽しさを広げていきたい。

手探りで忙しい日々ですが、今後は他の施設でも活動が広がってほしい、と考えています。

(注釈)

※1 コンマス…コンサートマスターの略。

管弦楽団の首席第1バイオリン奏者。

※2 マエストロ…イタリア語で「先生」「師」の意味を持つ称号。

【プロフィール】

田中 眞次(たなかしんじ)

平塚出身、平塚在住。

市内の小中高を経て大学へ。

卒業後は一般企業に就職したが、33歳で退職。バイオリン職人を目指し、名器「ストラディバリウス」を生んだイタリアのクレモナにて石井高氏に約1年間師事。現在は市内真田にある「田中バイオリン工房」にてバイオリン制作を行っている。

また、使わなくなった弦楽器を寄附してもらい、工房で再生。それを児童養護施設等に寄贈する活動を行う「弦楽リぼん」の代表も務める。

自身が所属する「アンサンブル音づくり」ではヴィオラに挑戦中。



各地から送られた弦楽器たち



ひらつかの文化財を知ろう③

墨で描かれた平安時代の顔



六ノ域遺跡出土



構之内遺跡出土

平塚市博物館で集成した「平塚市考古資料50選」に人面墨書土器があります。ごはん茶碗ほどの大きさの土器で、眉を下げた不安な面持ちの顔が描かれており、六ノ域遺跡（真土）で出土しました。

鋭い目つきで口を「へ」の字に曲げ、睨みつけるような表情の土器を出土したのは構

之内遺跡（四之宮）です。ひげも表現され、おそらく神を表したものと思われます。これらの土器は平安時代初め頃（8世紀後半から9世紀前半）のもので、病気や厄払いのための祭祀に用いられました。

真田・北金目遺跡群で発見された仏様と思われる顔もあります。眉間の白毫（びやくごう）と大きな耳たぶがその特徴を表しています。四角い口は唇でしょうか。このような表情の人面墨書土器は、県内では似ているものはありません。平安時代初め頃の土器で、やはり祭祀に利用されたのでしょうか。

文化財は現代にないものだから貴重であることが強調されがちですが、過去の文化に触れ、共感できることが大切なことと思われます。

平塚市には、国、県、市それぞれが指定する文化財があります。日頃触れることの少ない、貴重な文化財について御紹介します。

もしかしたら、人によってはこれらの顔が「ゆるキャラ」のように見えるかもしれません。それも「今」の文化といえます。

【今回紹介した文化財の公開】

【人面墨書土器】（真土及び四之宮での発掘）

平塚市博物館常設展示

【仏様が描かれた土器】（真田・北金目遺跡群で発掘）

【発掘された御仏と仏具―神奈川の古代・中世の仏教信仰―】
（主催：神奈川県教育委員会、茅ヶ崎市教育委員会）

①期間 平成26年12月6日（土）から平成27年1月18日（日）まで

場所 神奈川県立歴史博物館

②期間 平成27年1月31日（土）から平成27年3月1日（日）まで

場所 茅ヶ崎市文化資料館

※開館日や開館時間等は、それぞれの館によって異なります。



真田・北金目遺跡群出土



仏様の顔？

ワークショップ 人形浄瑠璃養成講座



たわわ90号でもご紹介した平塚の人形浄瑠璃。興味があっても触れる機会がない、という方は多いのでは？

そんな方のために、12月からワークショップ「人形浄瑠璃養成講座」が開催されます。

今回の講師「湘南座」さんは、一人で一体の人形を操る一人遣いです。練習にお邪魔すると、まず目に飛び込んだのは踊りの練習をしている姿。自分の体の動きと人形の動きが連動する一人遣いは、人形の動きそのものをマスターする必要があります。鈴や扇を持つての練習は、人形がいなくとも華やかです。

その後、実際に人形を準備して「壺坂観音霊験記」（つぼさかかんのんれいげんき）の練習。人形の背後に操り手の顔が見えますが、そのうち、まるで生きていくかのように動く人形に釘付けになります。

練習を続けると人形が操る人に似てく



壺坂観音霊験記的一幕

る、というのは湘南座城田さんのお言葉です。操る人の動き、間のとり方、感情の込め方などがそのまま一体の人形に反映する、一人遣いならではのお話に思えます。

今回ワークショップで学べる演目は「三番叟」（さんばそう）。五穀豊穰を願う三番叟は、おめでたい席で演じられることのある演目です。体の動かし方や人形の動かし方を学んで、平塚に根付く人形浄瑠璃の魅力の一端に触れてみてはいかがでしょうか。



【壺坂観音霊験記】（つぼさかかんのんれいげんき）

主人公は座頭の三味線弾きの沢市とその妻お里。お互いを思いやるがゆえに生じた悲劇を、壺坂寺の本尊が救済するお話。

【ワークショップ】

（日程）平成26年12月2日から全12回
（毎週火曜日午後6時30分から午後8時30分まで）

（場所）平塚市民センター 3階 和室

（対象）中学生以上

（お申し込み方法）

（公財）平塚市まちづくり財団まで
お電話ください。

（0463-32-2237）

「史跡の風景」第11回

謎多い平塚の原点 平塚の塚



平塚の塚がある「平塚の塚緑地」



平塚の塚

江戸時代に編さんされた地誌「新編相模国風土記稿」には、当時地元で伝承されていた平塚の地名の由来が記録されています。桓武天皇三代の孫である高見王の子、政子が東国に下ってきましたが天安元年（857年）に亡くなり、この地に埋葬して塚を築いたところ、塚の上部が平らであったので「平塚」の地名が起った、という話です。この話に登場する高見王という人物は、坂東八平氏と称される関東の武士団が共通して始祖と仰

ぐ平高望の父親と伝えられている非常に重要な人物なのですが、その実在は疑問視されています。

桓武天皇の子葛原親王とその子平高棟・善棟の兄弟、高棟の子実雄・正範・季長・惟範の兄弟は、古代の歴史書である日本後紀、続日本後紀、文徳天皇実録、日本三代実録などにその活躍が記録されていますが、高見王や平高望の名は登場しません。では全くの作り話かということ、そうでもなさそうです。葛原親王の長男平高棟は正三位大納言まで務めた政府の高官ですが、藤原長良の娘有子との間に二男二女があり、男子は先の四兄弟を含めて17人もいたと記録されていますから、一族の中の誰かが東国にきた可能性は十分にあります。名前に「高」が付いているので、平高棟かその兄弟あたりがモデルになっているように思われます。

平塚の塚の東隣りには松雲山要法寺があります。寺伝によると、ここには鎌倉幕府3代執権北条泰時の次男で近隣の地頭を務める平塚左衛門尉泰知が館を構えていました。弘安5年（1282）、日蓮上人が武蔵国へ赴く際に泰知の夢枕に七面天女があらわれ上人の到来を告げたため、泰知は館に上人を迎えま



塚の由来を記した「平塚碑」

した。上人の説法に感銘を受けた泰知は出家して松雲院日慈と名乗り、居館を寺としたとしています。しかし、平塚左衛門尉泰知なる人物もまた、鎌倉幕府の記録吾妻鏡にはその名を見つけないことができない、謎の人物なのです。

平塚氏を名乗る一族は他にもあります。相模の大豪族三浦一族の三浦為高が、平塚に所領を得て平塚為高と名乗ったと伝えられているのです。岡崎、田村、真田など平塚市内に多く拠点を持っていた三浦一族が、この地にも住んでいたことは容易に想像がつかます。後年、この平塚為高の流れをくむと称した美濃垂井城主の平塚為広は、関ヶ原の合戦に際して西軍大谷吉継



要法寺山門

隊の先鋒として戦い、討ち死にを遂げました。

平塚の原点とされるこの地は、幹線道路に面した場所として、長い年月にわたって人々や物資の往来を見つめる一方、多くの噂や伝説の舞台として語り継がれてきたのです。

平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は市民文化の振興を図るために様々な事業で活用されています。基金に御寄附くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。御支援をよろしくお願いいたします。(電話 0463-32-2235)

◆平塚市文化振興基金に御寄附をいただいた方
(平成26年5月から平成26年10月) (敬称略) ◆

・湘南新舞踊協会

◆基金はこんな事業で使われています◆

・小学校アウトリーチ ・湘南ひらつか囲碁まつり
・ひらつか音楽のおくりもの ・第九のつどい など



湘南ひらつか
囲碁まつり

ひらつか音楽の
おくりもの



小学校
アウトリーチ

発行 平塚市文化・交流課

〒254-0045 平塚市見附町 15-1 平塚市民センター内 電話 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

平成26年(2014年)11月15日発行 e-mail bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/bunka/index.htm>